

阿賀野川圏域河川整備計画 住民説明会 議事要旨

日時・場所	【津川地区】	平成 28 年 9 月 20 日(火)19:00～20:30	阿賀町文化福社会館
	【鹿瀬地区】	平成 28 年 9 月 21 日(水)19:00～20:30	阿賀町公民館
	【上川地区】	平成 28 年 9 月 26 日(月)19:00～20:00	阿賀町上川支所
	【阿賀野市】	平成 28 年 9 月 28 日(水)19:00～19:40	阿賀野市水原公民館
	【三川地区】	平成 28 年 9 月 29 日(木)19:00～20:40	阿賀町みかわ会館
	【五 泉 市】	平成 28 年 10 月 4 日(火)19:00～19:50	五泉市福社会館

参加住民	【津川地区】	8 名
	【鹿瀬地区】	17 名
	【上川地区】	14 名
	【阿賀野市】	3 名
	【三川地区】	10 名
	【五 泉 市】	2 名
	合 計	54 名

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 阿賀野川圏域河川整備計画（原案）住民説明会資料
- ・ 阿賀野川圏域河川整備計画（原案）【概要版】
- ・ 阿賀野川圏域の河川に関するアンケートのお願い

【説明会の概要】

（１） 住民説明会について

事務局から説明会の趣旨とアンケートの協力依頼を行った。

（２） 説明概要

下記について事務局が説明し、各地区において住民から様々な質問（次に示す「（３）住民からの質問」）が出された。

1. 現在の河川整備の進め方について
2. 阿賀野川圏域河川整備計画（原案）について

(3) 住民からの質問

【津川地区】

○用地

住民 常浪川の平堀地区では、過去の洪水により川の流れが変わり、現在民地を流れている箇所がある。民地と河川敷を交換する等して、登記の問題を解決したらどうか。

事務局 持ち帰って確認する。

○整備手法

住民 川幅をできる限り広くとって、大洪水にも対応できるようにしてもらいたい。

事務局 耕作地や住宅地を新たに川にするのは困難。計画している30年に1回の洪水に対しては、堤防の嵩上げ等で対応が可能。

○水門

住民 平堀地区において支川との合流点に水門があるが、どういう意味があるか。

事務局 一般的に水門は本川の水位が上がったことに伴い、支川に本川の水が逆流しないように設置している。

○住宅移転

住民 堤防より低い人家は浸かってしまう。高いところに人家を移すほうがより良い方策ではないか。

事務局 今回の河川整備計画の工法は確定したものではないので、実施にあたっては地域の意見を踏まえて進めていきたい。

○合意形成

住民 地域と合意形成という内容はどの程度のことか。

事務局 河川整備計画では輪中堤による整備を示しているが、輪中堤による手法は決定したものではなく、地域の皆様の意向を踏まえ、できる限り合意を図って進めていく。

○移転費用

住民 平成23年の水害では阿賀野川、常浪川、姥堂川の3つの河川が氾濫し、床上どころか、1階水没、車も浸水した。高いところへ移転させるというものもあるが、その費用は出してくれるのか。

事務局 今は、移転の費用を出す制度について確認していないが、今後そういった事業が可能となればこの計画の中で取り組むこともできる。

○排水ポンプ

住民 排水ポンプ車は国交省で1台か2台しかないと思うが、被害が出ればあちこちで必要になる。消防団のポンプ車では、能力が足りない。

事務局 国土交通省が大きなポンプ車を用意し、広域災害に備えるという対応をしている。ポンプ車に不足があるような場合は、配備の増強について国と相談していきたい。

○計画期間

住民 最近大雨が降っており、整備期間について今後30年間と悠長なことを言っている場合ではないのでは。

事務局 整備箇所は多数あり、一度に工事ができないため、一定の期間において実施する。整備にあたっては、洪水により大きな被害を受ける恐れがある箇所や既に被害を受けた箇所等、優先箇所を検討して進めていきたい。

○河床掘削

住民 姥堂川は河床が上がっている。築堤による整備も大事だが、定期的な掘削で河床を下げてはどうか。

事務局 河床に土砂が堆積することで流下能力の不足する箇所では、掘削が必要と認識している。姥堂川の平成23年の浸水被害は、阿賀野川本川の水位上昇に伴う浸水被害で、姥堂川の河床が高いことが直接の原因ではないが、維持管理上必要が生じたら堆積土砂の撤去をおこなう。

○樋門操作の自動化

住民 常浪川の東蒲の里付近に、堤防からゲート操作用の道路ができたが、今は自動でできるのでは。

○河川へのブロック投入

住民 堤防嵩上げよりも、砂利を取って河川を下げたほうがよいのでは。ブロックを川に入れると川が狭くなる。ブロックを入れるのではなく、川幅を広げて護岸のパイルを打つなど、補強してもらいたい。

事務局 阿賀野川は兩岸に山が迫っており、渓谷部の中で川沿いに集落が分布するため、掘削をすると周辺集落の移転が必要となる。また、岩盤が露出している狭い谷での掘削は困難である。また、全体的に掘削で対応すると工事が大規模になり、費用も膨大となる。限られた期間で整備する方法として、人家の浸水被害のおそれがある箇所に堤防を作ることとしている。ブロックは、堤防や護岸を洪水の流れから守るもので、河積を阻害するものではない。

○内水排除

住民 姥堂川等に接続する町内の排水路が集中豪雨の時、河川への排水不可能な状態になることを懸念している。樋門が閉じられると本流に流れない。雨が集中的に降ると、上から流れが集まって、マンホールが飛ぶという状況になるため、改修が必要である。

事務局 姥堂川に入る水路等の逆流については、阿賀町と相談して方法を考えていきたい。

【鹿瀬地区】

○目標流量

住民 阿賀野川の目標流量は、9,300m³/s、10,300m³/s、10,300m³/s と設定されているが、これは30年に1回の洪水の量を示すのか。

事務局 その通り。

住民 平成23年7月の新潟・福島豪雨における最大流量はどの程度か。それが再来しても計画の堤防の高さにすれば、溢れないのか。

事務局 目標流量は、新潟・福島豪雨と同じ規模で、上流では9,300m³/s、下流では10,300m³/sになる。整備計画ではこの流量に対し、堤防内で流下させる計画としている。ただし、この流量を流す高さと同じ高さの堤防としており、安全に流すための余裕高は無い。

住民 目標流量は、豊実9,300m³/s、鹿瀬9,300m³/s、合川10,300m³/sとある。豊実の下で実川が合流しても、鹿瀬で同じ9,300m³/sとなっているのはおかしいのでは。

事務局 計画をつくる上で数値を区間毎に区切っても施工が煩雑になるため、一定の数値で丸めている。当然、丸めるにあたって切り捨てると危険側になるため、全て切り上げにより数値を出しており、各地点の最大流量を示したものである。

○整備の進め方

住民 三川地区の整備は何%進んでいるのか。鹿瀬地区の整備はいつ頃になるのか、順序を決めているか。被害の大きい箇所は早く実施してもらいたい。

事務局 三川地区における災害復旧助成事業及び災害復旧関連緊急事業は概ね完了している。それ以外の新たな18地区については、この河川整備計画が無いと工事に着手できないため、河川整備計画を早期に決定して事業に着手したい。整備の順番はまだ決めていないため、計画策定後、被害を受けた際の重要度等を考慮しながら、優先順位を検討する。

○用地

住民 築堤の際は私有地を含めて考えるということか。

事務局 築堤の際に私有地がかかる箇所は、用地を買収する必要がある。個々の場所が、私有地にかかるか否かは、詳細設計を確認した後、関係者に説明して進めたい。

○堤防天端幅

住民 築堤の幅に、下流は7mで上流が6mと差があるが、この理由は。

事務局 堤防の天端幅は、国の基準で定められており、下流は流量が10,000m³/sを超えるため7m、上流は流量が5,000m³/sから10,000m³/sの間なので6mとなっている。

○水位情報

住民 洪水時に県境付近の地区にとって一番知りたい福島県の状況は、聞こえてこない。県としても県を超えて積極的に情報収集して提供して欲しい。

事務局 福島県や国の水位計は個々のホームページで見られるが、使い勝手が悪い。現在、情報システムを改築し、新潟県の防災情報システムというホームページで福島県の水位を見られるようにしたいと考えている。

○洪水時の対応

住民 平成23年の洪水では電源開発が田子倉ダムを全開したことで水量が最大になった。ダムの情報は東京から来るので、洪水が到達する前に分かる。にもかかわらず役場に電話したら若い職員だけで、対策本部も立てていなかった。これは人災でもあるのでは。

○樹木伐採

住民 河川敷の樹木を伐採して、昔遊べたように環境を整備すれば良いのでは。災害の軽減も期待できる。樹木伐採は各市町村に任せるといっても難しいから、計画的にやってもらいたい。

事務局 洪水等の流れに支障のあるところを優先して伐採している。除草は、町や地元の方をお願いしたり、委託を出したりしている。今後もしっかり進めていきたい。

○住民説明

住民 施工の際にはまた説明があるか。

事務局 整備計画作成後に整備順序等を決め、実施の段階になったら地元の説明する。

○鹿瀬地区の整備

住民 築堤する場所は、現在の堤防とどのような位置関係か。
事務局 現堤と同じ位置を基本とし、現堤が無い区間は概ね現堤を直線で結んだ位置としている。

○道路の浸水対策

住民 日出谷地区では、人家への被害は無いが、国道 459 号線が冠水すると孤立するので道路の交通も確保してもらいたい。
事務局 輪中堤等によって人家の浸水被害を防ぐ事を第一の目標としているが、実施にあたっては、地域の意見も踏まえながら進めていきたい。

○深戸地区の整備

住民 深戸地区は昔から水が出るたびに冠水する土地柄で、カドミウム、セシウムのこともあるので、早急に整備してもらいたい。計画法線はかつて暫定的に 6,000m³/s 対応の堤防を作ってもらった当時のものから変わったか。

事務局 今回の整備計画は、過去の計画洪水に最近の平成 23 年 7 月の新潟・福島豪雨の洪水も含めて計画を練り直したもので、過去の計画を含めた計画としている。計画法線は当時と同じで、堤防の高さは 6,000m³/s 対応だったものを 9,300m³/s 対応に上げている。

住民 災害がない限りは下流から順次築堤するということであるが、深戸の場合は堤防ではなく農道で、買収も必要ないので、順番を先にできるのでは。

事務局 現在、整備の順位を決めたものは無いが、被害が大きいところから先にやりたいと考えている。その際は、工事による下流への悪影響を及ぼさないなど、上下流のバランスを勘案し、地域の意見を聴きながら整備の順番を考えていきたい。

住民 深戸地区の木揚場沢、野砂利沢、宮古沢 3 つの沢の管理者は町か県か。福島豪雨のとき土砂等が堤防を越えて田んぼに入って、砂等が 3 つの沢に堆積したことを、町に言ったら、農政の作った水路だから町では処理できないという。今後、河川の清掃はどこに依頼すればよいか。

事務局 一級河川は、県で管理するが、3 つの沢は、一級河川ではない。一般的な河川なら、町の管理になるが、この場合はわからないので、調べて対応したい。

【上川地区】

○整備目標

住民 平成 23 年の福島・新潟豪雨に基づいて整備計画をつくるというが、1 / 3 0 の根

拠は何か。

事務局 新潟県では、河川整備計画の実施にあたっての目標は、流域面積が 200km² 以上の河川で 1 / 3 0 規模、流域面積が 200km² 未満の河川で 1 / 1 0 規模という一つの指標を持っている。阿賀野川は約 7,000km²、常浪川は約 400 km² のため 1 / 3 0 としている。

住民 整備計画が決まり工事を実施すれば、平成 23 年と同様の豪雨が来た場合、ある程度守れるということか。

事務局 阿賀野川については、平成 23 年と同じ洪水が来た場合は堤防内で流す計画としている。

○市民参加

住民 咲花地区での環境整備や川づくり懇談会開催といったものを、常浪川にも取り入れて欲しい。景観や水辺に親しむ観点からも期待があるので、その辺を網羅して整備計画を進めて欲しい。

事務局 河川整備計画は、洪水を堤防内で流すためにどの程度の堤防が必要かを示しており、策定された後は詳細な設計に入る。その際に地域から要望があれば、考慮して進めていきたい。

○早急な整備

住民 明日にでも豪雨があるかもしれないので、早急に計画を策定し、着手して頂くよう強く要望する。

事務局 本計画を策定した上で、早く進めていきたいので、協力をお願いします。

○雑木伐採・河床掘削

住民 伐採や、流木・堆積物の除去を計画的にしてもらいたい。

事務局 河床堆積物や流木等に関する要望箇所が多く、全てを一度に撤去することはできないため、流下能力が不足し、洪水の原因となることを確認した上で計画的に進めていきたい。

住民 現在、常浪川(室谷川)では河床が下がっているが、下がったほうが良いのか、悪いのか。

事務局 一般論として、河床の上昇については、断面が不足して洪水が流れなくなることが問題で、氾濫の原因となるため除去が必要。河床の低下については、護岸がある場合、護岸が洗掘などを受けて破損することを防ぐため、帯工等の設置を行う。

○広瀬地区の要望

住民 広瀬地区から長木地区までの間では昔に比べ1 m 以上河床が下がり、林道で問題が出ている。治山の関係で向島公園から川向かいの広域農道に抜ける林道では15m 程下に川があり、大水のたびに20~30cm 崩れる。現在、舗装に亀裂が入り10cm 程陥没している。4年程前にブロックを入れた範囲外であり、河床低下防止のためブロック等の追加設置をお願いしたい。

事務局 どの程度の被害が出ているか、現地を確認して考えたい。

○合川地区の要望

住民 合川地区は、築堤の説明がなかったが、どうなっているのか。土砂の掘削も重要なので検討をしてほしい。

事務局 今回示した4つの地区は、測量結果から計算して整備計画目標流量に対して堤防高が不足し安全に洪水を流すことができない地区としており、合川地区はそれによらないため今回の計画からは外れている。現地を確認し、堆積物等で流下能力の不足が生じている場合は堆積物の除去等の対応をしていきたい。

【阿賀野市】

○伐採計画

住民 何年に1回伐採するという計画はあるか。

事務局 具体的に何年間というものは無い。県が管理する河川において、樹木によって洪水時の流下能力を阻害し、堤防決壊や溢水等のおそれのある箇所を優先的に伐採している。

【三川地区】

○排水ポンプ

住民 排水ポンプ車は何個くらい用意してあるか。川口から咲花まで擁壁を作ってもらったが、阿賀野川の水位が上がると内水で浸水する。

事務局 ポンプ車の数が幾つかは今資料が無くて答えられない。考え方は、平成23年の新潟・福島豪雨の際の浸水被害の原因は、内水ではなく、阿賀野川本川の水位上昇に伴うものである。内水については、国土交通省にポンプ車の出動要請するのを基本としている。

住民 阿賀野川の水位が上がってゲートを閉めると、内水で浸水する。ポンプが沢山あれば、吐けるが、今後は咲花までの地区は堤防が高くなって、吐口も無くなって

いる。ポンプは早い者勝ちか、どこへ連絡すればポンプが機能するのか。ゲート付近にポンプを付けてもらいたい。

事務局 ポンプについては、役場が住民からの連絡を踏まえて、国土交通省へ要請することになっている。国土交通省は、近くでは早出川から持ってくるが、足りなくなれば下越地区、新潟地区にも幾つかポンプがあるので、そこから持ってくることも可能である。また、阿賀町や隣の阿賀野市にも建設業協会があり、阿賀野市で七、八台、阿賀町でも五、六台は業者がポンプを持っている。

○揚川発電所

住民 揚川発電所の排水路が阿賀野川に直角に排水しているので、下流側に向けると水の流れがよくなる。これを処分すれば川幅も広がって流れがよくなると思う。

事務局 阿賀野川の発電の放水が量は、阿賀野川本川に対して影響は少ない。東北電力に放水口の向きを直してくれとお願いはできても、難しいと思う。

○河床掘削

住民 船乗り場では右、左に水が流れ、中州ができている。

事務局 白崎の船着き、ライン下りの発着場の隣のことは把握している。バックホウは入れるが、どうやって土砂を運び出すかという課題がある。ダンプでないと運び出せないが、冬でないとできないし、予算の都合上厳しい面もある。吉津地区では、阿賀町から砂利組合に取ってもらったこともあるので、そういうことも含めて検討したい。

住民 渇水期にもっと砂利を取れば、水位が下がって内水排除にもよいと思う。

事務局 渇水時の砂利採取は、漁協がなかなか了解してくれない。漁協や関係者と話しながら、検討していきたい。

○谷沢地区

住民 谷沢地区では浸水により畑が全滅した。どう取り扱うのか。

事務局 人家の浸水対策を優先しており、谷沢地区は浸水する人家がないため、今回の計画に入っていない。

○環境

住民 環境整備を考えるため、県として、水質や魚等、環境のデータを把握しているか。阿賀野川や谷沢川でも、昔はもっと魚がいて、環境は変わったと感ずるので、データがあるとよい。

事務局 各機関の調査結果を使って圏域の状況を把握している。水質に関しては、経年変

化等を確認し、概ね良好な状況と確認している。そういった調査結果も計画に記載している。

○釣浜地区

住民 今釣浜地区には既存の堤防があると思うが、図では新たな堤防の計画があるということか。

事務局 資料の断面図に濃い茶色で塗っている築堤を計画している。

○既設橋梁

住民 既存の橋は、計画の水位まで上がっても抵触しないのか。

事務局 阿賀野川に架かる橋の桁下高は、整備計画目標水位まで上昇しても抵触しない。

○新谷川

住民 阿賀野川と常浪川の記載はあるが、新谷川は整備計画がないということか。

事務局 平成 23 年の洪水により、阿賀野川本川の水位上昇によって支流まで水位が上がる場所は、本川と同様に整備するが、単独河川としての整備計画はない。

住民 新谷川は何もしないということであるが、河道内の樹木は伐採しないのか。

事務局 河川内の樹木等の処理については、維持管理の中で実施する。県内にも樹木のあ
る河川は多数ある中で、樹木が流れに影響して浸水の恐れが高いところを優先的に伐採している。

○整備対象でない河川

住民 整備対象箇所となっていない支川についてどう考えるのか。石戸川では整備後 50 年経過し、あちこちで陥没したり、崩れたりしている。支川もよく見てもらって、補修をして欲しい。

事務局 石戸川に関しては、整備計画とは別に今年度、維持補修工事を予定している。なお圏域内の全てが整備計画の対象河川であり、定期的な巡視点検、早期補修、河道内に堆積した土砂の管理等を行っていく。

○観測所のシステム

住民 観測所のシステムはどうなっているか。水位観測所、雨量観測所の欠測というのが多い。しっかり管理してもらわないと、避難準備の際に困る。

事務局 今年度、機械の更新があり、その際に欠測が発生している。一部に電波の不都合による欠測もがあるが、管理はできていてデータも収集している。

- 住民 下流の人は、雨量と揚川の放流量によって、対応するが、振興事務所の電話サービスで雨量なり水位を聞くと、「赤崎」はずっと欠測である。場所の情報を自動音声に入れられないか。外出時に、ガラケー携帯だと場所の情報はわからない。
- 事務局 国交省が赤崎で地すべりの事業を行っていたが、事業が終わった際に雨量計も廃止したのか確認する。パソコンなら、各観測所の雨量や水位の状況を把握できる。

○整備計画作成の遅延

- 住民 前回の委員会から2年も経っているが、何をしていたのか。
- 事務局 谷底平野という地形特性における効率的な整備をするため、通常連続堤による整備ではなく、県として初めてとなる輪中堤等による計画としたため、関係機関との調整に時間を要した。

○整備手法

- 住民 川の中の堆積物は取ったほうが水位の低下になってよい。堤防を上げても内水被害が起きる。内水対策を含めた一連の計画にしてもらいたい。
- 事務局 掘削して水位下げること検討はしたが、阿賀野川の水位を下げるには相当の掘削が必要なため、堤防を上げざるを得ない。高い護岸堤も止むを得ない。外水対策が一番重要と考えている。

○内水対策

- 住民 水位の低下を図ってもらうと共に、内水処理をしてもらいたい。
- 事務局 内水被害に比べ外水による被害は大きくなるため、外水対策として堤防嵩上げを計画している。内水については、下水道計画によることが大きいので、町と調整したい。
- 住民 内水についてポンプを用いて緩和してもらいたい。
- 事務局 国土交通省のポンプ車の他、建設業協会の持っているポンプ車もある。また、国、県、市では事前にある程度要請箇所を想定して、緊急時にポンプ車が迅速に来られるように移動経路等の情報共有を図っている。ポンプ車による対応をお願いしたい。
- 住民 ポンプ車が配置しているところは遠いので、近くに配置してほしい。
- 事務局 浸水地区について把握していない部分もあるので、常襲地帯については町に言ってもらい、国の排水ポンプ車を要請する際の資料としたい。

○市民参加

住民 市民参加型のワークショップや意見交換会を開催は、これはいつごろ開催するか。咲花では開催したが、他の地区では開催しないのはなぜか。

事務局 市民連携型のまちづくりについて、地域から要望がある場合は、具体の詳細設計の際、検討していきたい。咲花では、災害復旧の事業の際、検討委員会から、観光施設もあり、温泉街ということで、景観に配慮するよう提言があったため、ワークショップを開いた。他の地区では意見がそこまで無く、急いでいたため、そのまま進めた。

○環境・利便性

住民 阿賀の里にあった被災前の護岸は鉄平石模様の階段ブロックや巨石型のモニュメント等地域の環境や利便性に配慮があったが、今回、行われていないのはなぜか。

事務局 災害ということもあり、事業期間と予算の関係でそこまでできなかったが、要望に沿うよう、階段だけでなくスロープも設置するなど、障害者への配慮もしている。

【五泉市】

住民 平成 H23 年洪水の高さで築堤するとあるが、昨今豪雨が多発している中、これを上回る降雨も考えられる。それに対して堤防を高くする考えはないか。

事務局 狭い土地の中で、堤防を高くすると、守るべき人家も移転が必要になり、期間も長くなってしまうため、今回の計画とした。超過洪水に対しては、命を守るためのハザードマップ等のソフト対策により安全の確保を図りたい。